

第5学年 音楽科 学習指導案

＜本時の主張＞

児童は、楽曲を鑑賞することを楽しみ、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みについても少しずつ聴き取ることができるようになってきている。特に、音楽を特徴付けている要素については、音色、速度、強弱を、また音楽の仕組みについては、「問いと答え」「反復」をよく聴き取れるようになってきた。けれども、曲を鑑賞して感じたことと、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みとを結び付けて楽曲を鑑賞する学習については経験が少ない。

そのような児童が、曲を聴いて、このように感じたのはこのような音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みによるものだったのだ、ということを考えながら楽曲を聴けるようになるために次のような手だてを講じる。

- ①音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気付きやすくするため、また意欲を継続して鑑賞するために、多様な聴き方を位置付ける
- ②楽曲の時間の流れを横に、音楽を特徴付けている要素を縦軸にとったマトリックスを用いた板書で聴き取ったことの整理を行う。

このようにすることで、楽曲を聴いて感じ取った曲の雰囲気や表情といった曲想と音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みとを結び付けながら楽曲を鑑賞することができるようになる。

1 題材名

曲想の変化を味わって聴こう

教材曲 『ハンガリー舞曲 第5番 ト短調』

ヨハネス・ブラームス作曲 アルベルト・パーロウ編曲

使用音源 カラヤン指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

UCCG-5237

2 題材の目標

『ハンガリー舞曲 第5番』の曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みのかかわり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いたりすることを通して、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、楽曲全体を味わって聴くことができる。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>①楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取ったり、曲想の変化を聴き取ったりし、楽曲の特徴を理解して聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>① 「ハンガリー舞曲第5番」の旋律、速度や強弱の変化、反復や変化、問いと答えを聴き取り、それらが互いにかかわり合って曲想を生み出していることに気付いて聴いている。</p> <p>② 「ハンガリー舞曲第5番」の曲想の変化を聴き取り、曲全体を味わいながら、楽曲の特徴について紹介文にまとめて書くことができる。</p>

4 題材と指導の構想

(1) 児童の実態

曲を鑑賞することが好きな児童が多く、市内の5年生がりゅーとぴあへ招待され、東京交響楽団の演奏を聴く「わくわくキッズコンサート」も楽しんで鑑賞した。

鑑賞の学習では、これまでに、「いろいろなひびきを味わおう」の学習でパッヘルベル作曲の『カノン ニ長調』を弦楽合奏版とマリンバ版で聴き、響きの違いを感じ取る学習、「レッツ！ボディ・パーカッション ～からだの音で音楽をつくろう！～」の学習でW.J.シンシュタイン作曲の『ロックトラップ』を聴き、音を音楽にするための仕組みを聴き取る学習を行ってきた。また、そのほか、「詩と音楽を味わおう」の学習で山田耕筰作曲の『待ちぼうけ』を聴き、旋律と日本語との関係を聴き取る学習、「和音の美しさを味わおう」の学習でエルガー作曲の『威風堂々』を聴き、和音の移り変わりを聴き取って和音の美しさを味わう学習、「世界の音楽に親しもう」の学習で諸外国の音楽を聴き親しみをもつ学習を行ってきた。

音色や速度、強弱といった音楽を特徴付けている要素については、聴き取ることができるようになってきた。また、音楽づくりで音を音楽にする際に使った「問いと答え」「反復」などの音楽の仕組みについても、曲を聴いていて「あ、今のは問いと答えかな？」と聴き取ることができる児童が多くなってきている。けれども、それら音楽の要素や仕組みが互いに関連し合い、かかわり合って楽曲の構造がつくられ、曲想を生み出していることについては学習の経験が少ない。この学習を通して、曲想について、「こんな風に感じるのは音楽のこの理由からだな。」と音楽の要素や仕組みと結び付けて考え、鑑賞できるようにしていきたい。

(2) 題材について

①本題材を学ぶ意義

上記の児童の実態を受けて、本題材を学ぶ意義は次のようなことであると考えます。
本題材の学習指導要領との関連事項は、次の通りである。

B 鑑賞

- (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

〔共通事項〕 ア (ア) 旋律, 速度, 強弱
(イ) 反復, 問いと答え, 変化

音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みがかかわり合って楽曲の構造を形づくり、曲想を生み出していることを学ぶ学習である。授業の中で観賞は行っているが、曲想と音楽の要素や仕組みを結び付けて考える聴き方の経験は少ない。本題材を学ぶことにより、児童は曲想と音楽の要素や仕組みとを関連付けて聴くようになり、歌唱や器楽、音楽づくりの学習においても自分が表現したい曲想に近付けるために、音楽の要素や仕組みを工夫しようと考えられるようになることを期待している。

②教材曲について

ブラームスは、ハンガリー出身のバイオリニストであるレマーニと共に演奏旅行を行い、その時にレマーニからロマ音楽を教えられ興味をもった。その後自分でもロマ音楽の採譜を行い、それを基に作曲を行ってピアノ4手連弾用作品として21曲から成る「ハンガリー舞曲集」を発表した。教材曲である『ハンガリー舞曲 第5番』は、オーケストラ用に編曲されたものである。第5番の編曲については、アルベルト・パーロウのほか、マルティン・シュメリングも行っている。全曲の中で最も有名で人気の高い曲である。

情熱的な短調の旋律で始まり（A）、中間部は快活な長調となり（B）、再び最初の旋律Aが再現される三部形式から成る。ロマ音楽の影響を受け、テンポの緩急、強弱の差が大きく、A、Bそれぞれの中でも曲想が変化する。（①、②）

楽譜

A①

A②

B①

B②



この教材曲を選択した理由は、以下の通りである。

- ・ AとBの雰囲気の違いを感じ取りやすいこと。
- ・ A、Bそれぞれの中においてもテンポの緩急、強弱の変化の差が大きく、速度や強弱の変化による面白さを感じ取りやすいこと。
- ・ 特にB②の部分でゆっくりでクレシェンドしているフレーズ、速くて小さな音の軽やかなフレーズが問いと答えのように繰り返し現れ、速度、強弱といった音楽を特徴付けている要素と「問いと答え」「反復」の音楽の仕組みとの関連が理解しやすく、その面白さを感じ取りやすい曲であること。
- ・ 曲の長さが2分半程度であり、授業の中で繰り返し聴くことができる長さであること。
- ・ ピアノ連弾と聴き比べる、指揮者による速度や強弱の変化の付け方の違いを聴き比べるなど、発展的な扱いもできる楽曲であり、曲想と音楽を特徴付けている要素とのかかわりについて理解を深めることができる曲であること。

以上のことから、本題材のねらいである曲想の変化を感じ取って聴き、曲想と音楽の要素や仕組みとの関連を考えながら聴く学習に適した楽曲であると考えた。

③使用音源について

鑑賞の学習においては、聴き取らせたい音楽の要素や仕組みがはっきりと分かる音源を選択することが大切である。使用音源は以下の通りである。

- ・ カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団演奏（UCCG-5237）
全時で使用する。特にBの部分における速度と強弱の変化が聴き取りやすい。AとBの旋律の対比についても聴き取りやすく、速度と強弱の変化の面白さを感じ取りやすい演奏であるという理由から選択した。

また、3時間目後半の発展的な学習において使用する音源は以下の通りである。

- ・ 小沢征爾指揮、サイトウ・キネン・オーケストラ演奏
カラヤン指揮のものより全体的にテンポが遅く、重厚さを感じる演奏である。Aの初めの部分においてもテンポの緩急があったり、Bの強弱の変化についても1回目より2回目の方が大きく演奏されたりするなど細かな演奏の工夫を聴き取ることができる。
- ・ ヴァルター・ヴェラー指揮、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団演奏
テンポが速く、スピード感ある演奏である。
- ・ アロイス&アルフォンス・コンタルスキー演奏（ピアノ連弾）
原曲であり、オーケストラ版との違いを聴き味わうことができる。

(3) 指導の構想

児童の実態と題材の特性を踏まえ、題材の目標に迫るように、題材全体を通して以下の手だてを講じる。

- 手だて1 題材のゴール（めあて）を示し、「この曲の人気の秘密をさぐっていこう」「この曲の魅力を見付けよう」という意欲を鑑賞を進めるエネルギーとする題材構成をする。

『ハンガリー舞曲 第5番』は、舞曲集21曲の中でも特に人気の高い楽曲である。前時で、この曲が人気の高い曲であることを話し、「この曲は、どうして人気があるのだろうか？」と児童に問い掛け、「人気の秘密を探っていこう。」と話す。そして、題材の最後に、鑑賞してみても見付けた人気の秘密を、この曲を聴いたことのない人が聴いてみたくなるような紹介文として書くことを知らせる。題材のゴールを示すことで、児童に「秘密をさぐっていこう」「この曲の魅力を見付けよう」と鑑賞する意欲が高まることを期待している。

- 手だて2 聴き取らせたい要素や仕組みに児童が気付くように聴かせ方を工夫する。

- ・部分に区切って聴かせる。

部分に区切って聴くことで集中して聴け、要素や仕組みが聴き取りやすくなる。

- ・めあてをもたせて聴かせる。

授業の中でできるだけ回数を多く聴くことが大切であるが、その度ごとに、「強弱の変化に気を付けて聴こう」「問いと答えになっている所を見付けよう」などめあてをもたせることで要素や仕組みを聴き取りやすくするとともに、意欲を継続し集中して何度も聴くことができるようにする。

- ・指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴かせる。

指揮をしながら聴くことで拍を感じやすくなり、速さの変化に気付きやすくなる。また、音楽に合わせて体を動かすことで体のあらゆる感覚を使って音楽をとらえ、音楽との一体感を味わうことができる。

- 手だて3 楽曲から感じ取ったことを言葉で表現する活動を行う。

手だて1と関連して、鑑賞して見付けた人気の秘密について紹介文を書く、という形で楽曲から聴き取り感じ取ったことを言葉で表現する活動を行う。言葉で表現することにより、楽曲の特徴について理解を深めるようにする。

- 手だて4 聴き取ったことが視覚的に分かるように板書やワークシートを工夫する。

板書やワークシートを工夫し、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みがかかわり合って曲想を生み出していることが視覚的に分かるようにする。

- 手だて5 気付いたことについて共通理解する場面を位置付ける。

児童の発言を大事にし、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みについて聴き取る場面においては、児童が発言した気付いたことについて全員が聴き取れるようにもう一度音楽を聴いて確認し、共通理解するようにする。

- 手だて6 他の演奏と聴き比べる活動を位置付ける。

他の指揮者、オーケストラによる演奏を聴き、音楽を特徴付けている要素の変化のさせ方の違いを味わい、それらと曲想との関連について理解を深める。

5 題材の指導計画（全3時間）

時	学習のねらい(○)と主な活動内容(・)	評価		
		関	鑑	評価規準(評価方法)
1	<p>○曲想とその変化を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ハンガリー舞曲第5番』やブラームスについての紹介を聞く。 ・全曲を通して聴く。指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴く。 ・曲想が変化したと思うところで手を挙げるようにして聴く。 ・曲想が変化したと感じたことを基に全体がどのような構成になっているのかについて話し合う。 ・全体がABAの三部形式になっていること、ABAの中でも雰囲気を変化していることを確認する。 ・想像した情景や感じたことなどをワークシートに書き、発表する。そう感じた理由についても分かる範囲で「音楽のもと」(音楽を形づくっている要素)の中から探して書く。 ・この曲が人気の高い曲であることを知り、学習の最後にこの曲の人気の秘密について紹介文を書くことを知る。 	①		<p>関①楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (鑑賞の様子を観察、発言)</p>
2 (本時)	<p>○音楽を形づくっている要素の働きを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの部分を聴き、速度や強弱の変化を聴き取る。 ・Aの部分の曲想と音楽的な要素との関連を考える。 ・Bの部分を聴き、速度や強弱の変化を聴き取る。 ・B②の部分に使われている音楽の仕組みについて考える。 ・聴き取った音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みと曲想とのかかわりを考える。 	②	①	<p>関②音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取ったり、曲想の変化を聴き取ったりし、楽曲の特徴を理解して聴く学習に進んで取り組もうとしている。(鑑賞の様子を観察、発言)</p> <p>鑑①「ハンガリー舞曲第5番」の旋律、速度や強弱の変化、反復や変化、問いと答えを聴き取り、それらが互いにかかわり合って曲想を生み出していることに気付いて聴いている。 (ワークシートの記述)</p>

3	<p>○感じ取ったことを言葉で表し、曲の特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを考えながら全曲を通して聴く。 ・『ハンガリー舞曲 第5番』の紹介文を書く。 ・グループで紹介文を読み合い、感想を交流する。 <p>○ほかの指揮者、オーケストラの演奏による『ハンガリー舞曲 第5番』を聴き比べ、速度や強弱の変化の付け方の違いによるそれぞれの演奏の工夫を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小沢征爾指揮，サイトウ・キネン・オーケストラの演奏を聴く。 ・ヴァルター・ヴェラー指揮，ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団の演奏を聴く。 <p>○ピアノ連弾による『ハンガリー舞曲 第5番』を聴き、オーケストラの演奏によるものとの違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アロイス&アルフォンス・コンタルスキー演奏のピアノ連弾を聴く。 	②	②	<p>関②音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取ったり、曲想の変化を聴き取ったりし、楽曲の特徴を理解して聴く学習に進んで取り組もうとしている。(鑑賞の様子を観察、紹介文の記述)</p> <p>鑑②「ハンガリー舞曲第5番」の曲想の変化を聴き取り、楽曲の特徴について紹介文にまとめて書くことができる。(紹介文の記述)</p>
---	---	---	---	--

6 本時の学習（全3時間、本時2時間目）

(1) 本時のねらい

『ハンガリー舞曲 第5番』の曲想について、部分に区切って聴いたり、指揮をしたりしながら聴く活動、聴き取ったことを視覚化する活動を通して、速度、強弱といった音楽を形づくっている要素や反復、問いと答えといった音楽の仕組みとのかかわりに気づき、説明することができる。

(2) 本時の構想

本時では、児童が楽曲の特徴を感じ取って聴く姿を実現したいと考える。本時において楽曲の特徴を感じ取って聴く姿とは、自分のとらえた『ハンガリー舞曲 第5番』の曲想について、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取って、それらとのかかわりから説明することができる姿である。教材曲とじっくりかかわらせ、学習を進めていく。

そのために、以下の具体的な手だてを講じる。

ア 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに気づきやすくするため、また意欲を継続して鑑賞するために、多様な聴き方を位置付ける

①部分に区切って聴く。

部分的に取り出して聴かせる。まず初めはAの部分だけを聴き、速さや強弱が途中で変化することを聴き取った後、では、続きのBについてはどうだろうか、速さや強弱が変化するかどうかと考えながら聴くようにする。

②めあてをもって聴く。

速さに気を付けて聴こう、強弱に気を付けて聴こう、使われている音楽の仕組みを見付けよう、と聴くたびごとにめあてをもたせるようにする。

③指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴く。

指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴くと、曲の拍の流れを意識することができる。速さに変化することに容易に気付くことができるようになる。ま

た、曲に合わせて指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりすることは曲との一体感を味わえ、楽しい活動である。意欲を継続して楽しく聴くために大切な活動であると考えてる。

ただし、5年生という発達段階を考えると、体を動かしながら聴くことを恥ずかしいと考える児童もいることが予想される。その場合は無理強いしないよう配慮する。

イ 楽曲の時間の流れを横に、音楽を特徴付けている要素を縦軸にとったマトリックスを用いた板書で聴き取ったことの整理を行う。

聴き取ったことを板書に整理し、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みがかかわり合っていることが視覚的に分かるようにするために行う。児童のワークシートもこれに準じた形式にし、曲想と音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みがかかわっていることを理解しやすくする。

<板書計画>

	A①	A②	→	B①	B②	→	A①	A②
感じたこと	ハチに追いかけてられる			走ったり休んだり			また追いかけてられる	
	時々ほっとしている							
速さ	速い	ゆっくり速い		速い	ゆっくり・速い (繰り返している)		速い	ゆっくり速い
強弱	強い	弱い強い		強い	強い・弱い (繰り返している)		強い	弱い強い
	(問いと答え)							

(3) 本時の展開と評価

学習活動	主な教師の働き掛けと児童の反応	指導上の留意点と評価
1 導入 (7分)	<p>○前の時間に、『ハンガリー舞曲 第5番』を聴きました。どんな場面が思い浮かぶかを話し合いましたね。今日もまず初めに最後まで聴きましょう。</p> <p>○曲を聴いて感じたことを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急いでいる感じの曲だった。でもゆっくりの所もある。 ・ハチに追いかけてられているみたい。時々ほっとしている。 ・海が思い浮かんだ。嵐で波が高い海だったり、静かできれいな海だったりする。 <p>○どうしてそのように感じたのかな。音楽のどこからそう思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速くなったり遅くなったりするから。 ・音が大きい所と小さい所があるから。 ・私もそう思った。多分そうだと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○皆さんが感じたこと理由は、「速さ」と「強弱」が関係しているみたいですね。今日は、この前より詳しく聴いて、感じたこと理由を音楽の中から見つけましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮をしたり体を動かしたりしながら聴かせる。 ・前時に聴いて感じたことを想起させる。今日新たに感じたことを付け足してもよいことにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・課題を板書する。</p> <p>感じたこと理由を音楽の中から見つけよう</p> </div>

<p>2 『ハンガリー舞曲第5番』のAの部分を聴く。 (10分)</p>	<p>○次の時間にはこの曲の人気の秘密について紹介文を書きますよ。感じたことの理由を見つけて人気の秘密を探っていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人気の秘密を見付けたいな。 <p>○初めの部分を聴きましょう。ここはみんなが「急いでいる」とか「ハチに追いかけている」とか感じた部分ですね。まず、みんなが予想した「速さ」について変化したと思ったところで手を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは速い。 ・ゆっくりになった。また速くなった。 <p>○そうですね。速さが変わった所がありましたね。</p> <p>○今度は「強弱」について気を付けながら聴きましょう。大きさが変わったと思ったら手を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あ、音が小さくなった。 ・ゆっくりの所は音も小さいんだ。 <p>○強弱についてはどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりになった所は、音も小さくなっていました。 <p>○みんなが感じた「急いでいる」とか「ハチに追いかけている」のは「音楽のもと」のどの理由からでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり速さからだ。速いから追いかけてるみたいに感じるんだ。ゆっくりで音が小さい所はちょっとハチが遠くにいったみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間にこの曲の人気の秘密について紹介文を書くことになっていたことについて想起させ、聴く意欲を高めるようにする。 ・指揮をしたり音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴いてよいことにする。 ・前時に音楽を聴いて感じたことの理由を「音楽のもと」から予想している。その要素について特に気を付けて聴いていくようにする。 ・児童の鑑賞の様子を見て、速さや強弱の変化について聴き取れていないようであればもう一度聴かせる。 ・気付いたことを板書する。音楽の時間的な流れを横に、音楽を特徴付けている要素を縦軸にマトリックスで表し、視覚的に音楽の構造が分かるようにする。 ・児童にも同様のワークシートを配付し、記入させる。書く所はできるだけ少なくし、書くことに時間がかからないようにする。
<p>3 『ハンガリー舞曲第5番』のBの部分を聴く。 (15分)</p>	<p>○次はBの部分です。ここはみんなが「明るい感じになる」「追いかけられたり休んだりしている」「天気がころころ変わるみたい」と感じた所でした。ここも「速さ」がその理由と考えている人が多いですね。「速さ」に気を付けて聴いてみましょう。変わったなと思ったら手を挙げましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりになったり速くなったりころころ変わる。 ・ゆっくりになった所は、ブワーン、ブワーンと大きくなっている。 <p>○どうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり速さが変わっていた。 ・大きさも変わっていたよ。 <p>○大きさも変わっていたことに気付いた人もいましたね。今度は「強弱」に気を付けて聴いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりでブワーンと大きくなって、すぐ小さく速くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分だけ取り出して録音しておき聴かせる。 ・Aの部分と同様に板書にまとめる。児童にもワークシートにまとめさせる。

<p>4 まとめをする。(5分)</p> <p>4 曲想と音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みとの関連についてワークシートにまとめる。(8分)</p>	<p>・この所は速さが変わったり大きさも変わったり面白いな。</p> <p>○このB②の部分は、音楽の仕組みの中のどれが使われているか分かりますか。</p> <p>・何だろう？ブワーン、と言って、タタタッと答えているみたい。</p> <p>・「問いと答え」かな。</p> <p>・繰り返してるよ。「反復」も使っている。</p> <p>○みんなが「追いかけられたり休んだりしている」とか「天気がころころ変わるみたい」とか感じたのは「音楽のもと」のどの理由からでしたか。</p> <p>・速さや大きさがころころ変わったからだ。</p> <p>・「問いと答え」になっている所がゆっくり、速い、になっているからだ。</p> <p>○『ハンガリー舞曲第5番』を聴いてみんなが感じたことの原因が「音楽のもと」の中から見付かりましたか。</p> <p>・ハチに追いかけていて、時々ほっとしているみたい、と思ったのは、速さが速くて、時々ゆっくりになったからでした。</p> <p>○みんなが感じたことと音楽の中から見付けた理由を考えながら最後まで聴きましょう。</p> <p>○みんなが感じたことは「音楽のもと」のどの理由からか、ワークシートにまとめましょう。</p>	<p>・</p> <p>・感じたこととその理由である「音楽のもと」とを線で結んだり、短い文章で書いたりなどして、曲想と音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みとの関連が分かるようにまとめさせる。</p>
<p><評価> 「ハンガリー舞曲第5番」の旋律、速度や強弱の変化、反復や変化、問いと答えを聴き取り、それらが互いにかかわり合っ曲想を生み出していることに気付いて聴いている。(ワークシートの記述)</p> <p>・Aと判断する具体例 曲想と複数の音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みとがかかわり合っていることに気付いている。</p> <p>・Cと判断される状況への働き掛け 板書をヒントに感じたこととどの「音楽のもと」とが関係あるのかを考えさせる。</p>		

7 参考文献

- ・高須 一・長谷川祐子 編著『小学校音楽の新題材モデル20』明治図書 2011
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校音楽』国立教育政策研究所 2011